

日本ボランティアコーディネーター協会運営委員長の加留部貴行氏の講座「ボランティアに向き合うということ」を受講してきました。

ボランティアの語源は、自由意志という意味のラテン語「Voluntas ( ボランティア )」と喜んでするという意味の「Volo ( ウォロ )」から成り立っています。因みに「Volo ( ウォロ )」という動詞には命令形がありません。

阪神・淡路大震災をきっかけに多くの人がボランティアをしたいと考え、その自発的な思いが底力となって全国各地でボランティア活動が芽吹きました。

この自発性とは、「 やりたいことをやる、 やりたくないことはやらない、 言われなくてもする、 言われてもしない。」ことです。

『Volo ( ウォロ ) の自発性』は、「ガマンしてやっているのではない、ガマンできない ( どげんかせなあかん ) からやっているのだ。」の気持ちからの行動です。

そして、はじめは「私の問題」と思っていたことが、「私の問題はみんなの問題かも？」と、同じ問題の人がつながって行動していくことが、世の中を変えていくことになり、ひいては行政をも動かすことになります。

ボランティアをしたい人、そしてボランティアを求めている人に対し、相互をつないでいくための支援も大切になってきています。しかし残念ながら「ボランティアコーディネーター」に対する社会的認知度はまだまだ低く、役割が十分に理解されていないという現状があります。

「実は、ボランティア活動は恋愛に似ている」というお話は非常に興味深かったです。どちらも「自発的な無償の行為で、ともに“機能”以上に“存在”に意味がある関わりである等々・・・」納得できる例えでした。

最後はマザー・テレサの「愛の反対語は無関心」という言葉でこの講座は締めくくられました。私たちは無関心であってはならない。一人一人の存在・思いを大切に加留部先生の熱い思いをしっかりと受け止めて「学園&地域交流ネットワーク」での活動に反映していきたいという思いを胸に帰路に着きました。

#### 【ご参考】 「実は、ボランティア活動は恋愛に似ている」

( 出典 : ( 社福 ) 大阪ボランティア協会事務局長・早瀬昇氏作成 )

ともに、自発的な無償の行為だ。

ともに、対象を選べる。

ともに、好きであることが選択の重要な基準となる。

ともに、“機能”以上に“存在”に意味がある関わりである。

ともに、出会いは偶然によるところが多い。

ともに、しんどいこともあるが自分自身も元気になる活動だ。

ともに、自分だけが満足するだけではうまくいかない。

ともに、続けることで多くの出会いができるが、続ける“だけ”になると陳腐化する。

ともに、止める時、別れる時が辛く難しい。

ともに、心移りをすることがある？

だから、ボランティア活動の“心構え”は親友と付き合う際のルールと同じ！